# がんばれ　新社会人

人生の転機は何度かある。入学・就職・結婚等。しかし自立への第一歩は何と言っても就職ではないかと思う。

草木の芽吹く4月は彼らにとって記念すべき月である。仕事に寄せる思い、意気込み、そんな心の内をのぞき見したい気持になり、新社会人となった二人に登場してもらった。

時代は違っても、あの時の思いに変わりはないようだ。

## 新社会人として

鈴木章弘（栗山4）

二年間の学生生活を終え、いよいよ社会人としての第一歩を踏み出すことになった。大きな期待と少しの不安でと言いたいところだが、本当に自分が社会人としてやっていくことができるかどうかという不安な気持でいっぱいである。

ラジオだったか雑誌であったか覚えていないが、新社会人に対してこういうことを言っていた。「君たちは小さな舟で、今まで波の穏やかだった内海から、波も高く風も強い大洋へ出ていくのだ」と。

まだ内海から船首をちょこっと出した程度なので、どれほどの荒波が私を待ち受けているのかわからないが、舵をしっかり握って大海原を進んでいきたい。

## 自立への〝第一歩〟

鈴木真弓（南部2）

社会人とは、実社会に出て自分自身で生活設計を立てることだと思う。そして、第一歩を踏み出した。

ほとんどの人は、就職又は家の仕事を継ぐのであろう。

私の場合、自営業ということで日本そば店をはじめた。普通男性の仕事と思いがちであるが、そもそも台所仕事というのは女性の仕事であったのだからそう考えれば何のこだわりもないはずである。

男女平等といわれる今日、すべてがそうとはいえないがお互いにできる限りのところまでは努力していくべきだろう。そして、女だから男だからということにこだわってはいけないと思う。一日の$\frac{1}{3}$の時間は仕事に費やすのだからこの時間をいかに有効に使うか。それは社会人としてやりがいのある仕事につくことだと思う。そして今、私はやりがいのある仕事を見つけた。どんな仕事でも努力し、自分自身を成長させていかなければならない。若いからではなく、若いからこそ何かをつかんでいこうと思う。

社会人としてやっと一歩を踏み出したばかり。たくさんの人達に囲まれ、支えられ、これからの自分を成長させたい。

## この人にきく

### 消防団長に就任された

## 人の〝和〟をモットーに

小柴長通さん（町原）

**就任された現在のお気持は―**

任務の重要性を思うとき身の引き締まる思いですが、幸いに副団長等に有能な人材を得ましたので、人の和をモットーに伝統ある町消防団の名を汚さぬよう全力でこれに当たる覚悟です。

**消防団活動の現状をどうみますか―**

分署（常備消防）との綿密な連携により、火災時等の対応は極めてスムーズに行われています。しかし、団員に勤め人が多くなっている現状から、今後に問題を感じます。

**団運営の方針は―**

前団長の下で消防団の指導に当たってきましたので、当面はその方針を踏襲して、消防団に課せられた使命を全うしてまいります。

**団員に何を一番望みますか―**

消防団の伝統とか使命といったものを団員一人ひとりが十分認識して、地域の期待に応えるしっかりとした心構えをもっていただきたい。

**機構改革等のお考えは―**

時代の推移に応じた機構の整備は必要なことですが、消防団には独特の歴史と伝統があり、又地域それぞれに特性がありますので、その辺を十分踏まえて改善策を講じてまいりたいと考えます。

**最後に町に望むことは―**

佐瀬町長の特段のご配慮で消防車両はほぼ整ったものと思われます。しかし消防水利の方が地域によっては不足気味ですので、今後はこの拡充に力を注いでいただきたい。